

災害時のペットとの



避難ガイドライン

避難所でのペット受け入れの考え方

🐾 受け入れ可能なペット

原則として、家庭で飼育されている、犬、猫、小動物（うさぎ、小鳥、ハムスターなど）です。

🐾 盲導犬、聴導犬、介助犬の取扱い

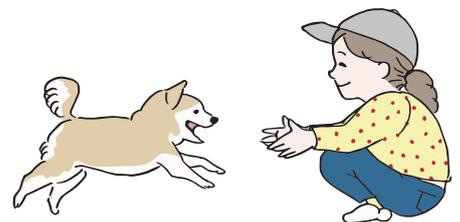
法律により、公共的施設での同伴を認められています。

避難所等でも身体障害者との同居が原則です。なお、他の避難者がアレルギー症状を引き起こす可能性がある場合は、別途配慮が必要となります。



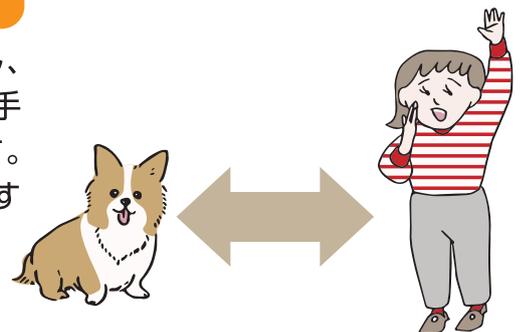
🐾 ペット飼育は飼い主の責任

避難所では、他の避難者への配慮やペットのストレス軽減など、飼い主の責任でペットの世話をすることが原則ですが、ペットの飼い主同士が協力することが重要です。



🐾 ペットの一時飼育スペースと居住スペースは分離

ペットの飼育スペースは原則、人の居住スペースと分けて運用し、飼い主とペットは同室で過ごせません。避難所には、動物が苦手な人、アレルギーのある人、不用意に手を出す幼児がいます。散歩などの場合を除いて、ペットを飼育スペース外に連れ出すことはできません。

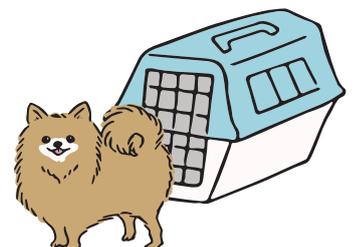


🐾 避難所等での飼育ルールの遵守

他の避難者に配慮し、避難所のルールを守って飼育してください。必要に応じて避難所運営者と協議し、ルールの見直しを行ってください。事故やトラブルが起きた場合は、当事者同士で解決してください。

🐾 同行避難とは・・・

「同行避難」とは、災害時に飼い主がペットを同行して避難所等まで避難することを指し、避難所等で飼い主とペットが同じスペースで過ごすことはありません。避難所等には、動物に不用意に手を出す幼い子どもがいることから、市川町の避難所等では、原則、人の居住スペースと分けて運用し、飼い主とペットが同室で過ごすことはできません。



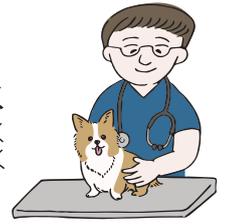
ペットの飼い主としての心構え

🐾ペットの所有者の明示

突然の災害に驚いて逃げてしまい、ペットが迷子になることがあります。保護された際に飼い主のもとに戻れるよう、普段から、外から見える迷子札などをつけ、さらに、首輪などが取れてしまったときの確実な身元証明としてマイクロチップの装着といった二重の対策をとりましょう。

🐾ペットの健康管理としつけ

- 🐾 健康管理をしておく
- 🐾 不妊・去勢手術をしておく
- 🐾 ペットの写真を平時に撮影しておく
- 🐾 普段からのペットのしつけ → ①人や動物にならしておく ②様々な音や物に慣らしておく ③ケージに慣らしておく ④むやみに吠えないようにしておく ⑤体のどこでもさわられるようにしておく



🐾動物用避難用品の確保

ペット用の備蓄品の例

- 🐾 療法食、薬
- 🐾 ペットフード、水(少なくとも5日分、できれば7日以上)
- 🐾 予備の首輪、リード(伸縮しないもの)
- 🐾 ペットシーツ
- 🐾 排泄物の処理用具
- 🐾 トイレ用品
(猫の場合は使い慣れた猫砂、又は使用済みの猫砂の一部)
- 🐾 食器
- 🐾 飼い主の連絡先と、ペットに関する飼い主以外の緊急連絡先・預け先などの情報
- 🐾 ペットの写真
(印刷するとともに、スマートフォンなどに画像を保存しておく)
- 🐾 ワクチン接種状況、既往歴、投薬中の薬情報、検査結果、健康状態、かかりつけの動物病院などの情報

ペットを避難させるために必要な避難用品の例

- 🐾 首輪とリード
- 🐾 犬用靴下やバンテージ(犬を歩かせて避難させる場合)
- 🐾 キャリーバッグやケージ(屋根や扉のついたもの)

その他、準備しておくことが望ましいもの

- 🐾 タオル、ブラシ
- 🐾 ウェットタオルや洗浄綿(目や耳の掃除など)
- 🐾 ビニール袋(排泄物の処理など)
- 🐾 お気に入りのおもちゃなど、その動物のにおいがついた用品
- 🐾 洗濯ネット
(猫の場合、屋外診療や保護の際に有用です)
- 🐾 ガムテープやサインペン
(ケージの補修やハウス作り、動物情報の掲示など)

🐾ペットの一時預け先の確保

避難所以外にも、親戚や友人、動物病院、ペットホテルなど、複数の一時預け先を確保しましょう。中でも大型の動物や危険な動物などは専用の飼育施設が必要なので、特に準備が必要です。

🐾飼い主同士の協力体制

ペットを連れて避難する方法を家族や地域住民と話し合みましょう。普段から近隣住民と良好な関係を築き、万が一の時はお互いに助け合えるようにしましょう。

🐾ペットと同行避難する前に確認

- ペットに迷子札などが付いた首輪を装着しているか
- ペットの大きさに合わせたキャリーバッグやケージに入れたか
- ペット用備蓄品を入れた袋を持ったか

CHECK!

災害時に必要なこと

🐾飼い主の安全確保・状況確認

災害時は、自身の安全を確保してからペットの安全を確保してください。災害時はペットがパニックを起こすことがあります。逃走やケガに注意し、リードやケージなどを使ってペットの安全に配慮してください。災害状況は、ラジオやテレビ、行政のHPから正確な情報を積極的に取得してください。



🐾避難先・避難方法の判断

自宅や地域の状況を確認し、避難するか否かを判断してください。自宅が危険な場合、自身の安全が確保できる範囲でペットを連れて避難してください。車中での飼育など、一時預け先へ避難する場合は温度や湿度に注意して、熱中症を防ぎましょう。

🐾ペットとの同行避難

避難所に避難する場合はペットと同行避難してください。災害時にペットと離れている場合は状況により、ペットが避難できるかを判断してください。

🐾ペットの一時飼育スペースの設営への協力

ペットの飼い主は避難所運営者と協力し、避難所にある物品でペットの一時飼育スペースを設営してください。また、必要に応じて壁や床をブルーシートなどで覆い、施設が汚れないよう対策しましょう。

🐾ペット同行避難者の受付への協力

ペットの飼い主同士で協力し合いながら、ペットの同行避難者の受付や誘導を行ってください。



🐾避難所等でのペットの一時飼育

飼い主全員で協力し、周囲に配慮しながら飼育ルールを守った適正な飼育をしましょう。退所する際は、一時飼育スペースとその周辺の清掃を行ってください。 ※飼い主が責任を持って行ってください。